

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和6年度 徳島県立ひのみね支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立ひのみね支援学校長 森本 裕美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本 裕美 中村 敏恵 宮野 三奈
学力向上推進員	主幹教諭 教諭(学部長)	伊丹 三郎 (小)福原 薫(中)宮本 洋子 (高)谷口 夏紀
委員	指導教諭 教諭(人権進路課長) 教諭(教務主任)	山田 千代 二宮 智子 (小)片寄 恭代(中)高木奈緒子 (高)豊田 尚子

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部) 児 童 の 状 況			
よ	安心感のある学校生活の中で生活リズムを整え、学習や経験を深めることで、興味関心があることや楽しいことに意欲的に活動できる。保護者や関係機関の支援を受けて、健康に学習に取り組んでいる。	課題 支援を受けることが多く、受け身になりやすい。制限のある場面が多いが、環境の変化に気付き、身の回りの状況を受け止めたり自分の気持ちを表出したりすることに課題がある。	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
心地よい学習を積み重ね、身近な人に、言葉や体の動きで気持ちを表出することができる。		エピソード記録から、全児童の学習場面での表出の増減や変容を確認する。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
①外部専門家(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士等)によるコンサルテーションや指導を受けたり協議をしたりして、専門性の向上を図る。 ②ケース会や学部会で児童の様子を共通理解することで、チームでの指導力の向上を図る。 * 中間期の見直し		①担任・担当する児童について、校外の専門家と協議した実把握態や指導の視点を、年に3回以上学部内で確認・共有する。 ②全児童の日々のエピソードを記録し共有する。	
達成状況を踏まえた改善事項			